



## 平成21年3月期 (第68期) ご報告

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

日機装株式会社

証券コード 6376



代表取締役社長

甲斐敏彦

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。いつも格別のご支援を賜り、まことにありがとうございます。ここに、日機装グループの平成21年3月期(第68期)の事業の概況をご報告いたします。

第68期  
決算の  
ポイント

**売上高はほぼ前期並み  
受注高は後半の工業部門の  
失速の影響を受ける**

**経常利益、純利益は  
円高や株価急落の影響を受ける**

### 業績

当社グループでは、従来からの中長期的方針のもと、事業のグローバル化、戦略的な事業展開、生産性向上、開発強化などに取り組み、事業基盤の着実な強化に努めてまいりました。

その結果、第68期の業績は、受注高676億円、売上高723億円、営業利益47億円、経常利益41億円、当期純利益13億円でした。

前半は、これまでの諸施策が効を奏し、順調に推移しましたが、後半は、景気低迷と、それにとまなう円高と株安による影響を大きく受け、売上高はほぼ前期並み、利益面では為替差損6億円と投資有価証券評価損16億円を計上することとなり、第67期に比べ、大きく減少しました。

部門別に見ますと、工業部門は、顧客業界の設備投資増加に対応した営業戦略を展開し、過去数年間、国内外で順調に業績を伸ばしてきましたが、昨年秋以降、顧客業界の設備投資の抑制、プロジェクトの延期・中止が相次ぎ、受注は急速に落ち込みました。売上については、クライオジェニックポンプの好調が支え、前期比微増となりました。

一方、医療部門は、昨年4月の診療報酬改定の影響から、主力製品である人工透析装置の売上が伸び悩みましたが、透析関連消耗品は透析患者の増加もあり、販売数量を伸ばしました。

### 成長に向けての取り組み

ポンプ事業では、昨年7月、世界有数の総合ポンプメーカーであるドイツのKSB社と合弁会社をドイツに設立し、この3月には新工場が完成しました。これにより、ヨーロッパ・ロシア・中東市場向けノンシールポンプの本格的な開発および生産・販売体制が整いました。

ISOL事業では、新規事業として取り組んでいる工場排水処理システムが、環境対応製品として、着実に実績を上げています。

航空宇宙事業では、ボーイング777の逆噴射装置用部品である「ブロッカードア」の長期供給契約を受注しました。また、昨年12月、ベトナム・ハノイ市郊外に新たな生産拠点「Nikkiso Vietnam, Inc.」を設立し、現在、急ピッチで新工場の建設を進めています。

メディカル事業では、米国バクスター社と透析関連事業の業務協力を行なうなど、海外の販売網を整備するとともに、生産面では、ドイツの工場が完成し、ヨーロッパ向け人工透析装置の生産を開始しました。

## これからの日機装グループ

本年4月から、新しい3か年の中期業務計画「ビジョン1000+」をスタートさせました。これまでの取り組みとその成果を踏まえ、さらなる飛躍をめざします。技術力のいっそうの向上、グローバル化への対応、マーケティング機能の強化、現場力の再生などを重点課題とし、数値目標だけでなく具体的な施策を明確にして、その達成に向けて全力を尽くします。

とくに、生産技術を含め、当社の将来を担う技術力の向上に注力し、新しく設立する「株式会社日機装技術研究所」の

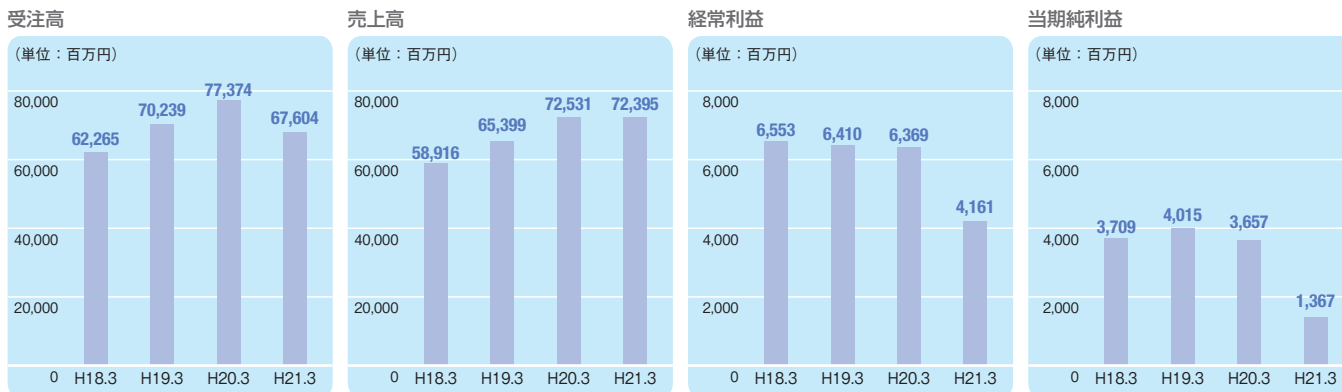


「ビジョン1000+」概念図

もとで、中長期にわたるさまざまな研究開発テーマに集中的に取り組んでいきます。

株主の皆様の一っそうのご支援をお願い申し上げます。

平成21年6月



## INTERVIEW 1

【航空宇宙事業本部】

「航空宇宙」の看板を掲げる重責を胸に  
ベトナム工場から世界を席卷します

執行役員 航空宇宙事業本部長  
長門 祥一

## Q 組織名が変わったのはなぜですか？

組織名が、「複合材」から「航空宇宙」へ変わりました。私たちは今後、航空宇宙業界で勝負していく、という覚悟を内外に明言したといってもいいでしょう。航空宇宙業界で勝ち抜いていくためには、技術、品質、価格、納期すべてが一流でなければなりません。この業界以外のお客様に対しても、こうしたイメージを抱かせる航空宇宙の看板は、大きなアピールになると考えています。

当社は、今年4月から、これまでの「社内カンパニー制」から新しい「事業本部制」へと移行しました。「社内カンパニー制」のメリットを活かしつつ、各事業本部と新たに設けた全社横断的組織とをうまく連携させ、日機装グループの成長を加速させるのが目的です。

現在、「ポンプ事業本部（旧 流体技術カンパニー）」、「ISOL事業本部（旧 インダストリアルソリューションズカンパニー）」、「航空宇宙事業本部（旧 複合材カンパニー）」および「メ

## Q 今後の事業戦略を聞かせてください。

当社は航空機エンジン用のカスケード（逆噴射装置部品）という製品で非常に高い世界シェアを持っており、当面はこれを軸に事業を展開します。以前は金属製が主流でしたが、当社は1983年に世界で初めて炭素繊維強化プラスチック（CFRP）を用いた製品の開発に成功し、現在ではほぼすべての民間航空機に採用されるまでになっています。今後はこの地位を堅持するとともに、カスケードで培った高度な成形技術を他の製品に応用していくことが重要な戦略になります。その一例が、このほど量産を始めた「ブロッカードア」という部品です。

事業展開の核となるのは、今年10月に稼働を開始する当事業本部にとって初の海外拠点であるベトナム工場（Nikkiso Vietnam, Inc.）です。国内と変わらない高品質な部品を、より競争力のある価格で供給するという大きな役割を担います。新規の航空機用部品の生産からスタートし、順次品目を拡大していく計画で、前述のブロッカードアも早期にベトナム工場で生産したいと考えています。



ブロッカードア

国内市場の開拓も大きな課題です。現在は売上高の海外比率が95%以上なのですが、リスク分散のためにも、国内をもっと開拓しなければなりません。今回の組織再編で「航空宇宙事業」という看板を掲げたことが、今後大きな意味を持つてくると考えています。

これらの施策によって、3年後には事業本部の売上高を現在の1.5倍以上に増やすことが目標です。現在の事業環境から考えると決して簡単な数字ではありませんが、何としても達成したいと考えています。

## Q 航空宇宙事業本部の将来ビジョンを聞かせてください。

静岡工場、ベトナム工場の有機的な連携を通じて、カスケードに続く第2、第3の柱を早期に立ち上げ、「脱カスケード」を加速します。「カスケードの日機装」から「CFRP製航空機部品の日機装」へ。

長年培った技術・品質をさらに発展させ、航空宇宙市場で欠かせないプレーヤーになっていることを目指します。



Nikkiso Vietnam, Inc. (完成予想図)

ディカル事業本部（旧 医療機器カンパニー）」の4つの事業本部があります。

そこで、今回は、この4つの事業本部のうち、「航空宇宙事業本部」と「ポンプ事業本部」の本部長に、今後の抱負を語ってもらいました。

## INTERVIEW<sup>2</sup>

【ポンプ事業本部】

### グローバル市場で圧倒的なNo.1へ 「信頼」を武器に海外展開を加速します

**Q** 前期（第68期）は大型プロジェクトが相次ぎましたね。

まさに激動の一年でした。米国では既存工場の拡張工事が完了し、米国市場を主とした製品の開発も始まりました。中国でも工場の移転・増強計画を進めましたし、欧州では世界有数のポンプメーカーであるドイツのKSB社との共同プロジェクトが始動しました。

これらはいずれも今後のグローバル展開強化に向けた大きな戦略に基づくものです。前期はこれからの日機装のポンプ事業を大きく飛躍させていく、基盤固めの一年だったといってもいいかもしれません。東村山製作所

をグローバル生産へのマザー工場と位置づけて大規模な改革を断行したのも、この一環としての動きです。

**Q** 今後の事業戦略を紹介してください。

当社には、液漏れを起こさない特殊な構造を持った「ノンシールポンプ」という、技術優位性が高く、市場の伸びも期待できる製品があります。現在は当社を含む数社で世界市場を分け合っている状況なのですが、ここで圧倒的なトップシェアを獲得することを急ぎます。

そのためには海外市場の開拓が急務です。米国では、現地規格に適合した新商品を相次いで投入し、3年後には売上規模を倍増させる計画です。生産能力が大幅にアップした中国でも、やはり大きな売上の伸びが期待できます。そして欧州では、現地向け製品をKSB社と共同開発するプロジェクトが動いています。KSBの強力な販売網を利用して、一気に欧州市場を攻略できるのではないかと考えています。

ほかにも、LNG（液化天然ガス）業界などで高いシェアを持つクライオジェニックポンプ（極低温液化ガスポンプ）の拡販や、原子力発電所関連の米国等の市場開拓に向けた事業化計画の策定など、課題は山積しています。これらを一つ一つ現実のものにしていくことで、ポン



Nikkiso-KSB GmbH



クライオジェニックポンプ  
（極低温液化ガスポンプ）

プ事業のグローバル展開を推進していきます。

**Q** ポンプ事業本部の将来ビジョンを聞かせてください。

まずは当社が展開するあらゆる製品分野の市場で、世界トップの地位を盤石なものにしたいですね。他社との競り合いから抜け出すためには、圧倒的な実力差が必要です。今後の海外展開強化によって、早ければ3年、長くて5年以内にはこの夢は叶うのではないのでしょうか。

産業分野で用いられている私たちのポンプ製品には、故障を起こさずに長期間安定して動き続けるという、非常に高い信頼性が求められます。これから世界市場へと攻勢をかけていく中でも、私たちはお客様に、「信頼」を買っていただいているということを決しておろそかにしてはなりません。世界のどこで作り、どこで売るのであると、日機装の製品である以上は、世界最高の品質、信頼性をお約束していかなければならないと肝に銘じています。



執行役員 ポンプ事業本部長

本間 久

## 日機装技術研究所の創設

中長期にわたる製品・技術、未来に繋がる基礎技術の研究、生産技術の刷新など、日機装グループのモノづくりを支える研究開発の拠点として、「株式会社日機装技術研究所」を設立します。

費用と成果、開発テーマやスケジュールなどを明確にし、緊張感のある運営をするため、独立した株式会社として組織します。また、若い技術者が熱い思いをもって研究に熱中できる環境を整え、独立組織なら

ではのさまざまな経営体験を通じて、次代を担える人材の輩出ももくろんでいます。

## アメリカのLNGポンプ生産会社 拡張工事完了

昨年11月、米国子会社であるNikkiso Cryo, Inc.の第2期拡張工事が完了しました。

この工事は、同社が扱うLNG（液化天然ガス）移送用ポンプの設計か

ら部品調達、製造、検査までの一貫した生産体制を実現することで、検査業務の効率化、輸送コストの削減、為替リスクの回避等を目的としたものです。

CO<sub>2</sub>排出量の少ないクリーンエネルギーとして注目されるLNGの需要拡大にともない、同社の生産性の向上が当社グループの業績に大きく貢献することを期待しています。



拡張工事が完了した  
Nikkiso Cryo, Inc.

## ドイツのポンプ生産会社 新工場に移転

本年3月、ドイツの合併会社であるNikkiso-KSB GmbHがフランクフルト近郊の新工場に移転しました。

同社は、当社と世界有数の総合ポンプメーカーであるドイツKSB社との間で、昨年7月に共同出資で設立した合併会社です。

新工場の総敷地面積は、従来の3.5倍に相当する5,700㎡で、大型キャンドモータポンプの性能試験装置を新設するなど、当社の国内生産拠点である東村山製作所ポンプ工場と同等のキャンドモータポンプの生産能力を有しています。

同社では、欧州を中心に、すでにキャンドモータポンプの製造・販売を積極的に開始していますが、今後は両社の技術を結集して、欧州の市

場ニーズに合致したキャンドモータポンプの新シリーズを開発し、欧州はもとよりロシア、中東、アフリカ市場向けに販売する計画です。



新工場内部

## ベトナムの新会社 新工場の建設を開始

本年2月、当社のベトナム子会社であるNikkiso Vietnam, Inc.の新工場の建設が始まりました。

同社は、将来旺盛な需要が見込まれる航空宇宙分野やエネルギー分野、医療機器分野において、当社主力製品の生産を補完する海外拠点として、昨年12月に、ハノイ市郊外に設立されました。

今回の第1期工事では、航空宇宙関連製品の工場を建設します。

今後は、広大な敷地面積（37,000㎡）を活用し、エネルギー関連製品、

医療機器など、さまざまな生産品目の拡充を検討していきます。



新工場 起工式

# Nikkiso's Technologies

元気のいい、当社の製品・技術をご紹介します。

## ブロッカードア

### 「カスケード」に続く第2の柱

### 「カスケード」と対になって、逆噴射装置を構成

航空機の着陸後のスピードダウンは、タイヤによるブレーキングのほか、エンジンの「逆噴射」という操作によって行ないます。これは、航空機着陸後の滑走距離をより短くするために、エンジンが吸い込んだ高速の空気流を逆方向に（進行方向）に噴射し、ブレーキの補助をするものです。航空宇宙事業本部では、この逆噴射を制御する整流格子である「カスケード (Cascade)」を製造し、世界中のほとんどの民間航空機に供給してきました。

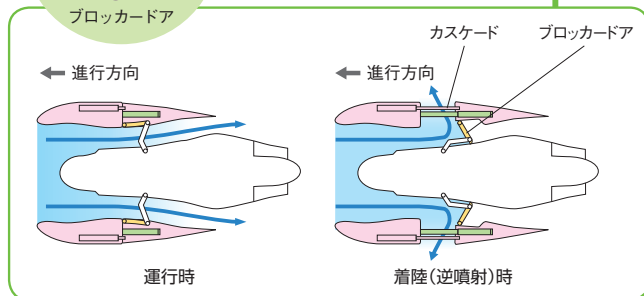
「ブロッカードア (Blocker Door)」とは、同じく逆噴射時に使用されるパネル状の炭素繊維強化プラスチック (CFRP) 製の部品で、吸い込んだ高速の空気をせき止める役目を果たす、軽量でかつ強度的にも厳しい要求を受ける部品です。いわば、カスケードと対になって逆噴射が行なわれます。ブロッカードアの枚数は、多くの場合カスケードと同数ですが、ひとつのエンジンに12枚から16枚取り付けられます。

着陸直後、エンジン周辺部にあるカバーが開くと同時に、カスケードが現れ、カバーに格納されていたブロッカードアが降りてきます。このブロッカードアが前方から吸い込んだ空気流をせき止め、この空気流がカスケードを通じてエンジンの側面から再び前方に逆噴射され、機体全体にブレーキがかかる仕組みです。

当社では、今回ボーイング777用のブロッカードアを米国 Spirit社から受注しました。長年カスケードの開発・製造を通し



ブロッカードア



て培われた当社への評価・信頼から実現したもので、カスケード以外の製品の取り込みを目指してきた当社にとって非常に大きな一歩となります。

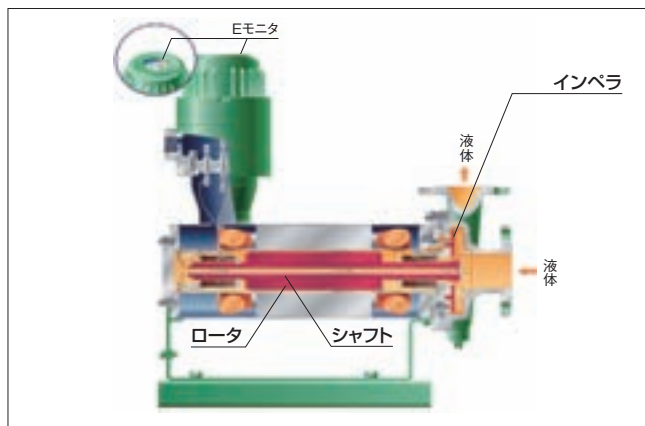
今後は、工場においていかに早く量産化を軌道に乗せ利益に貢献させるかに取り組めます。そして、今回の受注を実績として、第2、第3のブロッカードアの受注を目指して、さらに信頼を得ていきたいと考えています。

## 日機装ノンシール<sup>®</sup>ポンプ

### モータ部とポンプ部を一体構造とし、液体を外に漏らさないポンプ 原子力発電所、石油化学工場など、幅広い分野で活躍

当社のポンプには、通常のポンプにはないさまざまな特長があります。その中でも、当社が最も得意とするのが、液体を「外に漏らさない」技術です。通常の水道水であれば、多少外に漏れても問題ありませんが、これが人体や環境に有害な液体となれば、大問題です。日機装ノンシールポンプは、こうした液体をまったく外に漏らしません。

このポンプが液体を外に漏らさずに移送できる理由は、そのユニークな構造にあります。通常のポンプは、モータ部とポンプ部がそれぞれ分かれていて、両者がカップリングでつながっています。モータ部で生じた動力でポンプシャフトが回転し、同時にシ



ノンシールポンプ断面図



工場に設置されたノンシールポンプ

ャフトの先につけられたインペラという羽根車が回転して、遠心力で液体を押し出します。この場合、ポンプ部の液体を封じ込めるために、ポンプシャフト部には軸封装置が取り付けられますが、構造的に軸封装置から液体が漏れてしまいます。

これに対し、日機装ノンシールポンプは、左下の図のとおり、モータ部とポンプ部が合体し、ロータとシャフトとインペラ（赤い部分）が一体となって液体中で回転する構造で軸封装置がないので、まったく液体が外に漏れません。このような構造のポンプを、一般的に「キャンドモータポンプ」と呼びます。

この技術は、創業当時米国から輸入したのですが、その後独自の改良を重ね、今では技術的に世界をリードするに至りました。

そして、昨年7月、世界有数のポンプメーカーであるドイツのKSB社とドイツに合併会社を設立し、当社の技術力と同社の販売力を結集して、ヨーロッパ、ロシア、中東市場向けに、本格的な生産・販売を開始しました。また、両者の独自技術を融合した新しいタイプのキャンドモータポンプの開発も共同で進めています。一方、米国およびアジアにおいても、ノンシールポンプのいっそうの拡販を推進しています。

( ) 内は前年同期比

## 工業部門

受注高 **29,647** 百万円 ( 24.2%減)

売上高 **34,999** 百万円 ( 2.3%増)

### 流体技術カンパニー (新: ポンプ事業本部)

#### 事業内容

無漏洩ポンプ (ノンシールポンプ)、高精度定量注入ポンプ (ミルフローポンプ)、高速遠心ポンプ (サンダインポンプ)、液化ガスに使用される極低温用ポンプ (クライオジェニックポンプ) などを中心とする製品の製造・販売・メンテナンスを行なっています。



ノンシール®ポンプ

受注高 **16,535** 百万円 ( 27.0%減)

売上高 **21,665** 百万円 ( 18.5%増)

売上高については、急速な円高の影響を受けましたが、クライオジェニックポンプの売上がほぼ予定どおりであったことにより過去最高の実績となりました。

受注高については、第68期前半はノンシールポンプをはじめとする主力製品やアフターサービス事業が順調に推移していましたが、後半は一転して、世界同時不況と円高の影響により、主要顧客である石油・石油化学、液化天然ガス業界でのプロジェクトの延期や中止の動きが相次ぎ、大きく減少しました。

### インダストリアル ソリューションズ カンパニー (新: ISOL事業本部)

#### 事業内容

火力・原子力発電所を中心とする各種産業向け水質調整装置及びこれらの装置に自動化機能などを組み合わせたシステム製品、温水ラミネータ等の電子部品製造装置、及び粉粒体の粒度分析測定装置などの製造・販売・メンテナンスを行なっています。



工場排水処理システム

受注高 **8,706** 百万円 ( 20.9%減)

売上高 **8,922** 百万円 ( 14.7%減)

第68期は、電力向け水質調整装置関係の売上が比較的順調に推移しましたが、国内外の電子部品関係業界が世界同時不況の影響を大きく受け、主力の温水ラミネータの受注、売上とも大幅に落ち込みました。また、粒度分析測定装置関係は、前半は堅調に推移していましたが、後半は急速な景気後退により、受注、売上の伸びが鈍化しました。

新規事業として取り組んでいる工場排水処理システムは、着実に実績を上げております。

### 複合材カンパニー (新: 航空宇宙事業本部)

#### 事業内容

炭素繊維強化複合材製品の製造・販売を行っており、主力製品は航空機用逆噴射装置部品 (カスケード) です。



ブロッカードア



カスケード

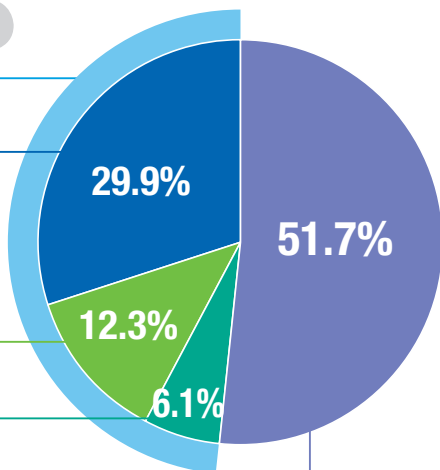
受注高 **4,406** 百万円 ( 19.4%減)

売上高 **4,411** 百万円 ( 19.5%減)

第68期は、後半の世界同時不況や急速な円高の進行、また昨年9月から約2ヶ月間にわたった米国ボーイング社でのストライキや、同社の次世代民間航空機B787の開発スケジュール遅延による当社製品の出荷遅延などが重なり、受注、売上ともに伸び悩みました。

一方で、ボーイング777用逆噴射装置用部品「ブロッカードア」の長期供給契約を締結し、また、開発が決定している新型民間航空機用の「カスケード」の供給契約を新たに締結しました。これらの新規製品の受注拡大と増産への対応、為替リスクや製造コストの低減などを目的に、ベトナム・ハノイ市郊外に新たな生産拠点 [Nikkiso Vietnam, Inc.] を設立し、生産開始に向けて準備を進めています。

## カンパニー別 売上構成比



（ ）内は前年同期比

**医療部門** 受注高 37,956 百万円（ 0.8%減）  
売上高 37,395 百万円（ 2.4%減）

### 医療機器カンパニー（新：メディカル事業本部）

国内では、昨年4月の診療報酬の改定による影響から医療機関の経営は一段と厳しさが増し、設備投資は新設・更新とも慎重な対応が続き、主力製品である人工透析装置の売上が伸び悩みました。一方、透析関連消耗品であるPEPA膜ダイアライザー、血液回路、および粉末型透析用剤は透析患者の増加を背景に売上を伸ばしており、特に、血液回路はベトナムの製造子会社の設備拡張工事が完了し、販売数量の増加に寄与しました。

海外では、円高の影響もあり、装置、消耗品とも売上は前期を下回りましたが、米国バクスター社と透析関連事業の業務協力を進めるなど、販売網を整備しました。また、製造コスト、物流コストや、為替リスクを低減する目的で進めていたドイツの工場が完成し、欧州向け人工透析装置の生産を開始しました。

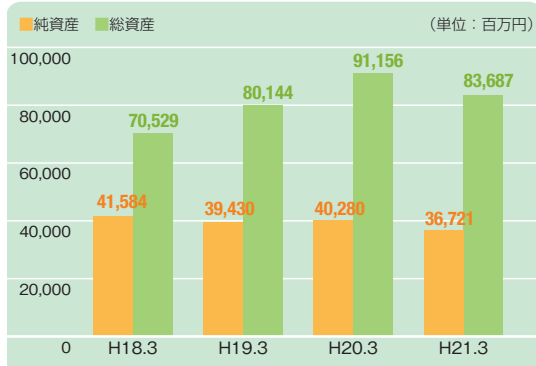


欧州向け  
個人用透析装置  
DBB®-05

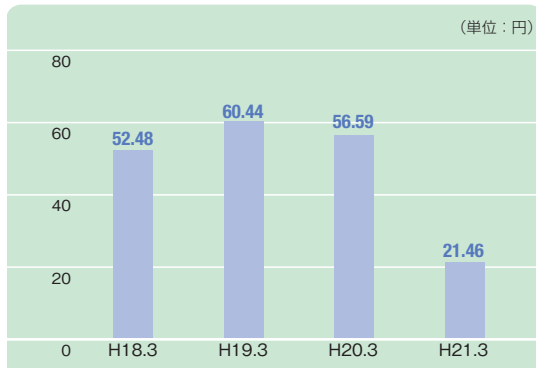
#### 事業内容

人工透析装置、ダイアライザー、血液回路、粉末型透析用剤などの血液透析関連製品や医薬品、血糖管理装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

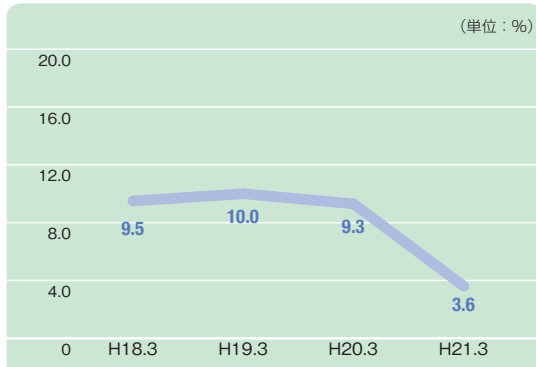
## 総資産・純資産



## 1株当たり純利益



## 株主資本純利益率 (ROE)



# 第68期連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 末	会 計 年 度 末
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>① 流動資産</b>	<b>52,689</b>	<b>56,502</b>
現金及び預金	10,248	10,829
受取手形及び売掛金	25,274	28,738
たな卸資産	14,197	14,589
繰延税金資産	1,036	1,332
未収還付法人税等	1,073	-
その他	1,253	1,163
貸倒引当金	△393	△151
<b>② 固定資産</b>	<b>30,997</b>	<b>34,654</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>19,035</b>	<b>20,513</b>
建物及び構築物	10,146	10,279
機械装置及び運搬具	3,359	3,950
土地	3,635	3,714
リース資産	212	-
建設仮勘定	170	624
その他	1,511	1,944
<b>無形固定資産</b>	<b>1,727</b>	<b>1,986</b>
のれん	688	1,288
リース資産	141	-
特許権	99	146
電話加入権	43	43
その他	753	507
<b>投資その他の資産</b>	<b>10,234</b>	<b>12,154</b>
投資有価証券	7,818	10,184
長期貸付金	20	49
繰延税金資産	377	36
破産更生債権等	22	17
前払年金費用	1,035	770
その他	978	1,112
貸倒引当金	△17	△16
<b>資産合計</b>	<b>83,687</b>	<b>91,156</b>

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 末	会 計 年 度 末
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>③ 流動負債</b>	<b>24,657</b>	<b>29,212</b>
支払手形及び買掛金	10,145	11,109
短期借入金	6,579	7,342
リース債務	129	-
一年内返済予定長期借入金	2,091	1,840
未払金	1,789	2,898
未払消費税等	90	40
未払法人税等	258	1,720
未払費用	589	565
賞与引当金	1,492	1,812
役員賞与引当金	60	74
設備関係支払手形	18	142
その他	1,412	1,666
<b>固定負債</b>	<b>22,308</b>	<b>21,663</b>
社債	6,000	6,000
長期借入金	15,080	14,284
リース債務	229	-
繰延税金負債	718	956
退職給付引当金	215	219
役員退職慰労引当金	51	191
長期預り保証金	12	11
<b>負債合計</b>	<b>46,965</b>	<b>50,876</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>37,557</b>	<b>38,292</b>
資本金	6,094	6,094
資本剰余金	10,265	10,272
利益剰余金	29,471	29,083
自己株式	△8,274	△7,158
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△1,314</b>	<b>1,397</b>
その他有価証券評価差額金	98	844
為替換算調整勘定	△1,412	552
<b>少数株主持分</b>	<b>479</b>	<b>591</b>
<b>④ 純資産合計</b>	<b>36,721</b>	<b>40,280</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>83,687</b>	<b>91,156</b>

### 連結貸借対照表のポイント

#### ① 流動資産

売上債権の回収により、受取手形及び売掛金が34億円減少しました。

#### ② 固定資産

市場株価の下落により、投資有価証券が23億円減少しました。

#### ③ 流動負債

法人税等の要納付額の減少により、未払法人税等が14億円減少しました。

#### ④ 純資産

円高の進行と市場株価の下落により、評価・換算差額等が27億円減少しました。

## 連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで	会 計 年 度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで
売上高	72,395	72,531
売上原価	51,301	49,416
売上総利益	21,093	23,115
① 販売費及び一般管理費	16,322	16,207
営業利益	4,771	6,908
営業外収益	1,089	858
② 営業外費用	1,698	1,397
経常利益	4,161	6,369
特別利益	16	1,055
③ 特別損失	1,851	742
税金等調整前当期純利益	2,326	6,682
法人税、住民税及び事業税	484	2,880
法人税等調整額	420	167
少数株主利益	54	△22
当期純利益	1,367	3,657

### 連結損益計算書のポイント

#### ①販売費及び一般管理費

海外子会社の貸倒引当金の積み増し、海外子会社が有するのれんの償却費負担が新たに生じ、115百万円の増加となっています。

#### ②営業外費用

米ドルに加えて、ユーロに対しても大幅に円高が進行した影響で、6億円の為替差損を計上しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで	会 計 年 度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,409	4,101
(うち減価償却費)	(3,173)	(2,411)
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,921	△4,840
(うち有形固定資産の取得による支出)	(△3,016)	(△4,663)
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△885	5,275
現金及び現金同等物に係る換算差額	△338	△249
現金及び現金同等物の増減額	△735	4,287
現金及び現金同等物の期首残高	10,565	6,278
現金及び現金同等物の期末残高	9,830	10,565

### 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

#### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の回収により18億円の資金が増加しております。

#### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支払により、30億円の資金が減少しております。

#### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得により、11億円の資金が減少しております。

#### ③特別損失

株式市況の大幅な下落による16億円の投資有価証券評価損を計上しています。

## 連結株主資本等変動計算

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

当連結会計年度 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等			少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株 主 資 本 合 計	その他有価証券 評価差額金	為 替 換 算 調整勘定	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
平成20年3月31日残高	6,094	10,272	29,083	△7,158	38,292	844	552	1,397	591	40,280
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△770		△770					△770
当期純利益			1,367		1,367					1,367
自己株式の取得				△1,134	△1,134					△1,134
自己株式の処分		△6		18	11					11
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			△146		△146					△146
持分法の適用範囲の変動			△62		△62					△62
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△746	△1,965	△2,711	△112	△2,824
連結会計年度中の変動額合計	—	△6	388	△1,116	△734	△746	△1,965	△2,711	△112	△3,559
平成21年3月31日残高	6,094	10,265	29,471	△8,274	37,557	98	△1,412	△1,314	479	36,721

## 会社の概況

(平成21年3月31日現在)

創業日	昭和28年12月26日 (登記上の設立日は昭和25年3月7日)
資本金	6,094,984,191円
従業員数	連結 3,843名 当社単独 1,368名

## 役員・執行役員

(平成21年6月23日現在)

代表取締役社長	甲斐 敏彦	執行役員	本間 久
常務取締役	長尾 章弘	執行役員	田代 初男
取締役	木下 博	執行役員	長門 祥一
取締役	中村 洋	執行役員	圓尾 樹生
取締役	野上 宏	執行役員	伴 信彦
取締役	西脇 章	執行役員	素木 岫一
常勤監査役	山本 光祥	執行役員	清水 信行
常勤監査役	国政 慈志	執行役員	千葉 敏昭
監査役	中根堅次郎	執行役員	林 清秀
監査役	菊地裕太郎	執行役員	房前 芳一
		執行役員	宮田 博明
		執行役員	紅林 哲夫

## 会計監査人

(平成21年6月23日現在)

監査法人トーマツ

## 株式の状況

(平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数	249,500,000株
発行済株式の総数	72,611,464株
(うち自己株式)	9,986,018株
株主数	8,799名

## 大株主

(平成21年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社みずほ銀行	3,199	4.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口 4G)	2,929	4.03
株式会社みずほコーポレート銀行	2,577	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.70
日機装持株会	1,847	2.54
日機装従業員持株会	1,842	2.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,830	2.52
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,822	2.51
日本生命保険相互会社	1,500	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエク イティインベストメント株式会社信託口)	1,404	1.93

グループ会社一覧

ポンプ事業本部

- 製造・販売  
日機装エイコー株式会社  
サンダイン日機装株式会社
- メンテナンスサービス  
日機装リューキテクノ株式会社
- 海外製造・販売  
Nikkiso Cryo, Inc.  
上海日機装ノンシールポンプ有限公司  
Nikkiso Pumps America, Inc.  
Nikkiso Pumps Korea Ltd.  
Nikkiso-KSB GmbH

ISOL事業本部

- メンテナンスサービス・工事  
日機装テクニカ株式会社
- 海外製造・販売  
台湾日機装股份有限公司 (工業部門)  
Microtrac, Inc.
- 製造・販売  
日機装サーモ株式会社

航空宇宙事業本部

Nikkiso Vietnam, Inc.

メディカル事業本部

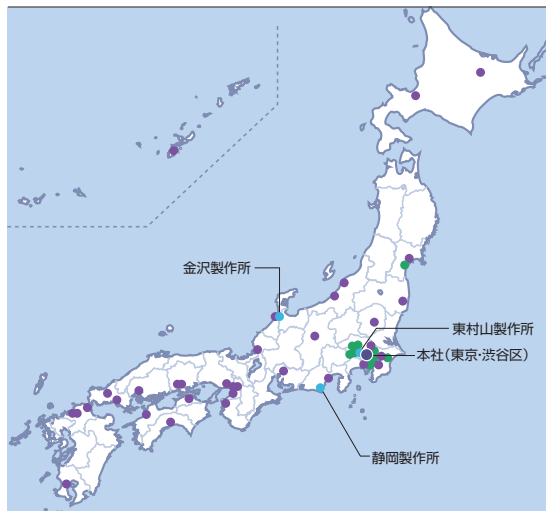
- 販売・メンテナンスサービス  
日機装東北医工株式会社
- メンテナンスサービス  
日機装M.E.S.株式会社
- 海外製造・販売  
M.E.Nikkiso Co., Ltd.  
Nikkiso Vietnam MFG Co., Ltd.  
Nikkiso Medical Systems GmbH
- 海外販売・サービス  
Nikkiso Medical GmbH  
台湾日機装股份有限公司 (医療部門)  
上海日機装医療器械貿易有限公司  
Nikkiso Medical Korea Co., Ltd.  
Nikkiso Medical (Thailand) Co., Ltd.

共通部門

- Nikkiso America, Inc.  
日機装 (上海) 投資管理咨询有限公司  
株式会社日機装技術研究所 (7月1日 創業予定)  
創光科学株式会社

国内拠点・関係会社

● 営業拠点 ● 生産拠点 ● 関係会社



東村山製作所



静岡製作所



金沢製作所

海外拠点・関係会社

● 駐在員事務所 ● 関係会社



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	(1) 事務取扱所 (お問い合わせおよび郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (2) 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
単元株式数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行ないます。 ただし、やむを得ない事由により電子公告を することができない場合は、日本経済新聞に 掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス <a href="http://www.nikkiso.co.jp">http://www.nikkiso.co.jp</a>
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード6376)

## お知らせ

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等の取り扱い先について

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求につきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で取り扱います。お取引をされている証券会社等にお問い合わせください。

なお、特別口座にて管理されている株式については、特別口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社での取り扱いとなります。お問い合わせ先は左記株主名簿管理人と同じです。

## 日機装ホームページ リニューアルのお知らせ

この4月から、当社のホームページを一新しました。従来に比べ、IR情報、会社情報、製品情報等のページを改善し、より見やすく、より分かりやすく工夫を凝らしています。

ぜひ、右記のURLにアクセスしてください。



ホームページサイト

<http://www.nikkiso.co.jp>

モバイルサイトもあわせてご覧ください

<http://m-ir.jp/c/6376>



## 日機装株式会社

〒150-8677 東京都渋谷区恵比寿3丁目43番2号  
電話 03-3443-3711



本電子は、「ニューマットFSC-MIX」を使用し、「大豆インク」で印刷しています。